

献血者で希望があった方には、☆生化学的検査成績を。また400ミリリットル献血にご協力いただいた方には生化学検査に加えて★血球計数検査を実施しています。（平成21年3月15日から「グリコアルブミン GA」を追加）

☆生化学的検査成績

検査項目	説明
ALT 標準値 5~45 IU/L	肝臓にもっとも多く含まれる酵素です。 肝炎などで肝細胞が障害を受けたときに数値が上昇します。
γ-GTP 標準値 10~65 IU/L	肝臓、胆道、すい臓、腎臓に多く含まれる酵素です。閉鎖性黄だん、肝炎、アルコール性肝障害などで数値が上昇します。
総たんぱく TP 標準値 6.5~8.2 g/dL	病気で栄養が悪くなったり、肝臓や腎臓が悪くなると数値が異常に出ます。
アルブミン ALB 標準値 3.9~5.0 g/dL	血清たんぱくの大半はアルブミンです。総たんぱくとほとんど同じ意味があります。
アルブミン対グロブリン比 A/G 標準値 1.2~2.0	血清たんぱくの大半はアルブミンです。 アルブミンとグロブリンの割合が適正であるかどうかの指標です。
コレステロール CHOL 標準値 110~250 mg/dL	これが高いと動脈硬化や高血圧が促進されるといわれています。 脂肪の多い食事を取りすぎたり、肥満、腎臓、すい臓、胆道などが悪いときにも数値が上昇します
グリコアルブミン GA 標準値 12.4~16.3 %	血液中のアルブミンとブドウ糖(=血糖値)と結合してできる物質です。 グリコアルブミンは過去約2週間の平均血糖値を反映しているといわれています。 標準値内であっても検査値が15.6パーセント以上の場合には注意が必要です。

★血球計数検査項目

検査項目	説明
赤血球数(RBC) 男性 425~570 女性 375~500	貧血の有無の目安となります。赤血球は、血液の主な細胞成分で、 酵素を肺から各組織へ運ぶ働きを持っています。
ヘモグロビン量(Hb) 男性 13.3~17.4g/dL女性 11.2~14.9g/dL	貧血の有無の目安となります。血液の赤い色は赤血球の含まれる ヘモグロビン(血色素)によるもので、赤血球の働きの中心となっています。
ヘマトクリット 男性 39.0~50.4%女性 34.0~44.0%	貧血の有無の目安となります。ヘマトクリット値は一定の血液量に対する 赤血球の割合(容積)をパーセントで表したものです。
平均赤血球容積(MCV) 80.0~100.0 fL	貧血の種類判定の目安となります。赤血球1個の平均的容積、すなわち赤血球 の大きさの指標となるもので、赤血球数とヘマトクリット値から算出したものです。
平均赤血球ヘモグロビン量(MCH) 標準値 26.0~34.0 pg	貧血の種類判定の目安となります。赤血球1個に含まれるヘモグロビン量を 平均的に表したもので、赤血球数とヘモグロビン量から算出したものです。
平均赤血球ヘモグロビン濃度(MCHC) 標準値 32.0~36.0 %	貧血の種類判定の目安となります。赤血球の一定容量に対する ヘモグロビンの量の比をパーセントで表したものです。
白血球数(WBC) 標準値 35~100	白血球は細菌などを貪食し、免疫情報を伝達してさらに免疫を発現して 生体防御にかかわっています。細菌感染症があると一般に白血球数は増加しますが、 ウイルス感染の場合はかえって減少することもあります。
血小板(PLT) 標準値 14.0~38.0	血小板は出血を止めるための重要な働きを持ち、この値が極端に減少すると 出血を起こしやすくなります。